

薬学生の将来-多様なキャリアと多職種連携

責任者・コーディネーター	臨床医化学講座 那谷 耕司 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床医化学講座、学長、機能生化学講座、分子細胞薬理学講座、附属病院、神経科学講座		
対象学年	4	区分・時間数	講義 16.5 時間
期間	後期		
単位数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

薬学部を卒業後に関わることが予想されるさまざまな職業（臨床薬剤師、薬局経営者、医師、看護師、行政薬剤師、製薬企業勤務者（創薬、開発、医療情報担当者）、医学教育・研究者）の特色について、実際にその職業に従事されている方々に体験を交えてご紹介いただき、それぞれの職種の役割について学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

本講義を通じて卒業後のさまざまな進路をイメージすることにより、医療に関わる職業人となることを自覚できるようになるとともに、卒業後の職業選択に役立つ。また自身が卒業後に就くことを希望している職種とは異なる職種の業務内容を学習することにより、社会に出てからのチーム医療の実践、多職種連携に役立つようになる。加えて、5 学年での実務実習や 6 学年での「総合講義」「アドバンスド科目」における学習意欲が向上する。（ディプロマポリシー：1, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10）

・到達目標（SBO）

1. 医療人としての心構えと社会からの期待について理解できる。（☆）
2. 医療と薬剤師の関わりについて考えを述べる。（☆）
3. 薬の専門家が社会において果たす役割を列挙できる。（☆）
4. 薬剤師とともに働く医療チームについて概説できる。（☆）
5. チーム医療のしくみと重要性について説明できる。（☆）
6. チームワークの重要性を例示して説明できる。（☆）
7. 医師、看護師など他職種の立場からチーム医療を理解することができる。（☆）
8. 医薬分業のしくみと意義を説明できる。（☆）
9. 地域薬局の役割を列挙できる。（☆）
10. 在宅医療および居宅介護における薬局と薬剤師の役割を説明できる。（☆）
11. 医薬品の適正使用における薬剤師の役割について概説できる。（☆）
12. 薬剤師の活動分野（医療機関、製薬企業、衛生行政など）について概説できる。（☆）
13. 司法における薬剤師の役割を概説できる。（☆）
14. 先端医療を支える医薬品開発の現状について概説できる。（☆）
15. 医薬品の創製における薬剤師に役割について概説できる。（☆）
16. 創薬研究について理解し、社会に対してどの様に貢献しているか説明できる。（☆）
17. 医薬品等に係わる知的財産権保護の仕組み（申請、承認など）について説明できる。（☆）
18. 製薬企業における MR の役割について説明できる。（☆）

19. 研究に必要な独創的考え方、能力を醸成する。(☆)
20. 研究者に求められる自立した態度を身につける。(☆)
21. 研究者・医療教育者としての進路についてイメージできる。(☆)
22. 薬剤師が関わる種々の職業について討論できる。(☆)
23. ヒューマニズム(生と死、生命倫理)について理解できる。(☆)
24. 医療現場で働く医療関係者の講義から、自身の将来像をイメージできる。(☆)

・ 講義日程

(矢) 東 403 4-C 実習室、(矢) 東 404 4-D 実習室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
8/30	火	3	学 長	祖父江 憲治 学長	医療教育・研究者(1)(☆) 医療に関わる基礎研究の現状と将来について ～医学部出身者の立場から
9/6	火	3	附属病院看護管理室	安保 弘子 副看護部長	チーム医療(1)看護師の立場から(☆) チーム医療における看護師の役割と 薬剤師の関わりについて学ぶ。 講師：岩手医大附属病院看護管理室 副看護部長 安保弘子先生
9/13	火	3	臨床医化学講座	宮手 義和 非常勤講師	調剤薬局の薬剤師業務と経営、地域 医療との関わりについて(☆) 講師：岩手県薬剤師会 宮手義和先生
9/20	火	3	臨床医化学講座	佐々岡 沙羅 非常勤講師	行政機関で働く薬剤師の役割と業務 内容について(☆) 講師：宮城県警科学捜査研究所 佐々岡沙羅先生
9/27	火	3	臨床医化学講座	寺田 尚弘 非常勤講師	チーム医療(2)医師の立場から(☆) 医師の立場からチーム医療における 医師と薬剤師の関わりについて学ぶ。 講師：釜石市医師会 寺田尚弘先生
10/4	火	3	附属病院薬剤部	小野 晴章 薬剤師	チーム医療(3)病院薬剤師の立場 から(☆) 病院薬剤部における業務内容と薬剤 師に求められる知識、技能、態度に ついて学ぶ。 講師：岩手医大附属病院薬剤部 小 野晴章先生
10/11	火	3	臨床医化学講座	及川 美和 非常勤講師	製薬企業の社会的使命とMRの役割 について(☆) 講師：MeijiSeika ファルマ株式会社 及川美和先生

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
10/14	金	2	機能生化学講座	中西 真弓 教授	医療教育・研究者(2) (☆) 医療に関わる基礎研究の現状と将来 について ～薬学部出身者の立場から
10/18	火	3	臨床医化学講座	荒井 俊光 非常勤講師	製薬企業の研究開発について (☆) 講師：武田薬品工業株式会社 医薬 研究本部 プロジェクトマネーজে メントグループ 荒井俊光先生
10/24	月	3	分子細胞薬理学講座	衣斐 美歩 助教	医療教育・研究者(3) (☆) 医療に関わる基礎研究の現状と将来 について ～歯学部出身者の立場から
10/24	月	4	臨床医化学講座 神経科学講座	那谷 耕司 教授 大橋 一晶 准教授 ナウシィン ジャマル 助教 駒野 宏人 教授	スモールグループディスカッション (SGD) と講義全体のまとめ (☆)

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタンダード薬学シリーズ II-1 薬学総論 I. 薬剤師と しての基本事項	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 4,800 円)	2015

・成績評価方法

各講義終了後に提出させる「講義の概要」の提出状況(10%)およびレポート(90%)から総合的に評価する。

・予習復習のポイント

講義のポイントとなる点については、できるだけその日のうちに復習しておくこと。予習の必要は特にない。
授業に対する復習の時間は約 30 分を要する。

総合薬物治療演習

責任者・コーディネーター	構造生物薬学講座 野中 孝昌 教授、地域医療薬学科 高橋 寛 教授 衛生化学講座 名取 泰博 教授、創剤学講座 佐塚 泰之 教授、細胞病態生物学講座 奈良場 博昭 准教授、薬剤治療学講座 三部 篤 教授 生体防御学講座 白石 博久 講師		
担当講座・学科(分野)	構造生物薬学講座、有機合成化学講座、天然物化学講座、衛生化学講座、機能生化学講座、細胞病態生物学講座、微生物薬品創薬学講座、生体防御学講座、分子細胞薬理学講座、創剤学講座、薬物代謝動態学講座、神経科学講座、臨床医化学講座、薬剤治療学講座、臨床薬剤学講座、地域医療薬学科		
対象学年	4	区分・時間数	演習 55.5 時間
期 間	後期		
単 位 数	4 単位		

・学習方針（講義概要等）

総合薬物治療演習では、4年間の薬学教育の復習とまとめを行い、各科目の知識と技能を統合し、薬物治療に関する能力を身につけることを目的とする。従って、授業は各担当講座が分担して行い、広範囲の分野に渡る知識を体系的に学ぶ。更に、これらの学習を基礎として、より専門性の高い薬物治療に関する知識や技術に関しても学び、薬物治療に関する 基本的知識と技能を体系的に習得し、適切な薬物治療を考察できるようになる。

・教育成果（アウトカム）

基礎薬学分野（ゾーン1）

物理、化学、生物系の薬学専門科目の講義で学習した事項を復習し、関連する知識を整理統合できる。最新の物理、化学、生物系について、関連分野の最新の話題を説明できるようになる。

医療薬学分野（ゾーン2）

薬理、治療学、医療薬学、創剤学、薬物動態系科目の薬学専門科目の講義で学習した事項を復習し、関連する知識を整理統合できる。最新の薬理、治療学、医療薬学、創剤学、薬物動態系について、関連分野の最新の話題を説明できるようになる。

衛生薬学分野・実務分野（ゾーン3）

衛生、実務系薬学専門科目の講義で学習した事項を復習し、関連する知識を整理統合できる。最新の衛生、実務系について、関連分野の最新の話題を説明できるようになる。

総合薬物治療演習（ゾーン4）

それぞれの患者背景を考慮し、適正な薬物治療をおこなうことができるようになるため、疾病と症例を中心とした薬物治療学とこれまでに学習してきた基礎・応用科学を統合した学習を行う。この演習により、薬物治療に関する 基本的知識と技能を体系的に習得し、適切な薬物治療を考察できるようになる。

(ディプロマポリシー：1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9)

・到達目標 (SBO)

基礎薬学分野 (ゾーン1)

物理、化学、生物系の薬学専門関連科目の SBOs

医療薬学分野 (ゾーン2)

薬理、治療学、医療薬学、創剤学、薬物動態系の薬学専門科目の SBOs

衛生薬学分野・実務分野 (ゾーン3)

衛生、実務系薬学専門科目の SBOs

総合薬物治療演習分野 (ゾーン4)

4年間の薬学教育の復習とまとめを行い、ゾーン1からゾーン3までの各科目の知識と技能を統合し、薬物治療に関する能力を身につける。☆

・講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
	8/31	水	4	構造生物薬学講座	野中 孝昌 教授	物質の物理的性質、生体分子の構造解析
	9/1	木	4	分子生物薬学講座	藤本 康之 准教授	化学物質の分析、遺伝子工学
	9/2	金	4	天然物化学講座	藤井 勲 教授	化学物質の構造決定、天然物・生薬
	9/6	火	4	有機合成化学講座	河野 富一 教授	化学物質の性質、反応、合成
	9/7	水	4	生体防御学講座	大橋 綾子 教授	生体防御のしくみ
	9/13	火	4	細胞病態生物学講座	奈良場 博昭 准教授	生理活性分子とシグナル分子
	9/14	水	4	微生物薬品創薬学講座	西谷 直之 講師	病原微生物・悪性腫瘍との戦い
	9/20	火	4	神経科学講座 神経科学講座	駒野 宏人 教授 鄒 鶴 特任講師	ヒトの成り立ち、生体の機能調節
	9/21	水	4	機能生化学講座	中西 真弓 教授	細胞を構成する分子と細胞内代謝
	9/27	火	4	分子細胞薬理学講座	弘瀬 雅教 教授	薬の作用と生体内運命
	9/28	水	4	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	疾患と薬物治療-1
	10/4	火	4	臨床医化学講座	那谷 耕司 教授	疾患と薬物治療-2

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
	10/5	水	5	薬物代謝動態学講座	小澤 正吾 教授	薬物動態、医薬品情報
	10/11	火	4	創剤学講座	佐塚 泰之 教授	製剤化のサイエンス
	10/12	水	4	衛生化学講座	名取 泰博 教授	健康と環境
	10/18	火	4	地域医療薬学科	高橋 寛 教授	薬学と社会-2
	10/19	水	4	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬学と社会-1
B	10/28	金	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 1
B	10/28	金	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 1
B	10/31	月	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 2
B	10/31	月	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 2
B	11/1	火	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 3
B	11/1	火	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 3
B	11/2	水	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 4
B	11/2	水	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 4
A	11/4	金	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 1
A	11/4	金	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 1
A	11/7	月	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 2
A	11/7	月	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 2
A	11/8	火	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 3
A	11/8	火	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 3
A	11/9	水	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 4
A	11/9	水	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 4

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
B	11/11	金	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 5
B	11/11	金	3	生体防御学講座	白石 博久 講師	総合薬物治療演習 5
B	11/14	月	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 6
B	11/14	月	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 6
B	11/15	火	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 7
B	11/15	火	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 7
B	11/16	水	2	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 8
B	11/16	水	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 8
B	11/17	木	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 9
B	11/17	木	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 9
A	11/18	金	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 5
A	11/18	金	3	細胞病態生物学講座	奈良場 博昭 准教授	総合薬物治療演習 5
A	11/21	月	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 6
A	11/21	月	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 6
A	11/22	火	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 7
A	11/22	火	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 7
A	11/24	木	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 8
A	11/24	木	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 8

クラス	月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
A	11/25	金	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 9
A	11/25	金	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 9
B	11/28	月	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 10
B	11/28	月	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 10
A	11/29	火	1	細胞病態生物学講座 生体防御学講座	奈良場 博昭 准教授 白石 博久 講師	総合演習 10
A	11/29	火	3	薬剤治療学講座	三部 篤 教授	総合薬物治療演習 10

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	スタンダード薬学シリーズ2 「物理系薬学I 物質の物理 的性質」第2版	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 4,400 円)	2011
教	今日の治療薬 2016	浦部晶夫 島田和幸 川合眞 一 編	南江堂 (定価 4,600 円)	2016
教	病気が見える vol.1~ vol.10			

・成績評価方法

中間試験 2 回 (それぞれ 10% で合計 20%) および各ゾーンごとに総合薬物治療演習の定期試験 (ゾーン 1~4 をそれぞれ 20%、合計 80%) を行い、その結果から評価する。

・予習復習のポイント

- ・予習としては、予定されている授業内容を予め確認しておくこと。
 - なお、野中担当分に関しては、Moodle上に開設した予復習テストをもって、予復習のポイントに替える。
 - ・復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題をまとめること。
 - ・授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低30分を要する。
-
- ・分野毎の演習成果を評価するため、下記日程で2回に分けて中間試験を実施する。
 - 9月29日（木）1,2限：物理／化学／生物／薬理／病態系
 - 10月27日（木）1,2,3限：薬剤／創剤／衛生／医療系

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	WindowsもしくはMacintoshのノート型PC	1	スライドの映写
講義	プロジェクター	1	スライドの映写

実践衛生薬学

責任者・コーディネーター	衛生化学講座 名取 泰博 教授		
担当講座・学科(分野)	衛生化学講座、薬剤治療学講座、衛生学公衆衛生学講座		
対象学年	4	区分・時間数	講義 16.5 時間
期間	後期		
単位数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

衛生薬学は応用分野の学問であり、薬剤師の実務においても学校薬剤師や保健所などの業務では重要な領域となっている。本講義では2、3学年で学んだ衛生薬学分野の科目の応用編として、現場に即した内容を講義する。

・教育成果（アウトカム）

これまでの衛生関連科目で学んだ内容を再確認し、併せてそれらが薬剤師の実務においてどのように応用されているかを把握することにより、地域や学校における公衆衛生の向上に貢献できるようにする。
(ディプロマポリシー：3,4,7,9)

・到達目標（SBO）

1. 医療現場における疫学の応用について、例を挙げて説明できる。(☆)
2. 食中毒の発生原因と予防方法について説明できる。(☆)
3. 代表的な食品汚染物質や乱用薬物とそれらの試験法について説明できる。(☆)
4. 代表的な食品成分や食品添加物とそれらの試験法について説明できる。(☆)
5. 食事摂取基準を理解し、その活用と栄養管理指導について説明できる。(☆)
6. 地域や学校における良好な水環境の維持及び改善の概要について、説明できる。(☆)
7. 地域や学校における良好な空気環境の維持及び改善の概要について、説明できる。(☆)
8. 感染性廃棄物とその取り扱い及び廃棄の方法について説明できる。(☆)
9. 公衆衛生における感染症予防の概要を説明できる。(☆)

・講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
8/31	水	3	衛生化学講座	名取 泰博 教授	概論, 疫学 (薬剤疫学など)
9/7	水	3	衛生学公衆衛生学講座	丹野 高三 准教授	コホート研究など疫学研究の実際
9/14	水	3	衛生化学講座	藤村 哲雄 非常勤講師	保健所における薬剤師の業務
9/21	水	3	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	食中毒

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/28	水	3	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	食品汚染物質と乱用薬物
10/5	水	3	衛生化学講座	米澤 正 助教	飲食物試験法
10/6	木	1	衛生化学講座	杉山 晶規 准教授	食事摂取基準と栄養管理
10/12	水	3	薬剤治療学講座	手塚 優 助教	学校薬剤師の業務
10/14	金	1	衛生化学講座	川崎 靖 助教	環境衛生(1) (水環境)
10/19	水	3	衛生化学講座	名取 泰博 教授	環境衛生(2) (空気環境, 感染性廃棄物)
10/21	金	1	衛生化学講座	名取 泰博 教授	感染症 (検疫感染症, 予防接種など)

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	衛生化学詳解(上、下)	浅野 哲ほか	京都廣川書店	2014
参	必携・衛生試験法	日本薬学会 編	金原出版 (定価 4,000 円)	2011

・成績評価方法

定期試験(100%)から評価する。

薬事関係法規・制度2

責任者・コーディネーター	臨床薬剤学講座 工藤 賢三 教授		
担当講座・学科(分野)	臨床薬剤学講座、微生物薬品創薬学講座		
対象学年	4	区分・時間数	講義 13.5 時間
期 間	後期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

患者の生命に関わる医療の担い手として薬剤師がその使命を果たすためには、薬剤師としての倫理・責任を自覚し、保健・医療・福祉に係る多くの関連法規と制度について理解し、義務及び法令を遵守することが大切である。そのため、薬剤師業務に必須な関連法規および医療関連制度の基本的知識を修得するとともに、義務及び法令を遵守する態度を身に付ける。特に、薬事関係法規・制度2では、薬害と副作用救済制度、医療行政のしくみと役割や医療保険制度を含めた社会保障制度、医薬品開発と生産を取り巻く環境とともに、基本的な医薬品開発の流れについて学習する。

・教育成果（アウトカム）

薬剤師としての保健・医療・福祉に係る関連法規と制度、医薬品開発と生産と制度、またこれらを取り巻く環境を理解することで、医療における薬剤師の果たす役割を俯瞰することができ、また患者の権利や安全を確保するためのしくみと役割を理解することで、変化する環境の中で適切に医療に寄与できるようになる。
(ディプロマポリシー：1,2,3,4,9)

・到達目標（SBO）

1. 医薬品による副作用が生じた場合の被害救済について、その制度と内容を説明できる。
2. 製造物責任法を概説できる。
3. 社会保障制度のしくみを説明できる。
4. 社会保障制度の中での医療保険制度の役割を概説できる。
5. 介護保険制度、高齢者医療保健制度のしくみを説明できる。
6. 医療保険の成り立ちやしくみを説明できる。
7. 医療保険の種類を列挙できる。
8. 国民医療費の動向や内訳を概説し、診療報酬と薬価基準について説明できる。
9. 薬物治療の経済評価手法を概説できる。
10. 医薬品開発のコンセプトと生産の流れについて概説できる。
11. 治験の意義と業務、薬剤師の役割について説明できる。
12. 販売承認後の安全対策について説明できる。
13. 医療行政のしくみと役割を概説できる。（☆）
14. レギュラトリーサイエンスを概説できる。（☆）

・ 講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/5	月	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬害と医薬品副作用救済制度、PL 法
9/12	月	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	社会保障制度、介護保険制度、高齢者医療制度など
9/23	金	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	医療保険制度：診療報酬、薬価基準、保険薬局と療養担当規則
9/26	月	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済・医療統計（1）：国民医療費、後発医薬品
10/3	月	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	薬剤経済・医療統計（2）：経済評価の手法
10/14	金	5	臨床薬剤学講座	佐藤 信範 非常勤講師	医療行政、レギュラトリーサイエンス
10/17	月	3	微生物薬品創薬学講座	西谷 直之 講師	医薬品の開発と生産（1）：医薬品開発のコンセプト
10/20	木	3	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	医薬品の開発と生産（2）：医薬品の承認と治験
10/21	金	2	臨床薬剤学講座	工藤 賢三 教授	医薬品の開発と生産（3）：医薬品の安全対策

・ 教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬学と社会 2016	薬学教育センター編	評言社	2015
参	薬事法規・制度及び倫理解説	薬事衛生研究会	薬事日報社	2015
参	医薬品の開発と生産	永井恒司、園部 尚 編	じほう	2010

・ 成績評価方法

定期テスト（90%）と小テスト（10%）の合計で評価する。また、小テストは形成的評価にも使用する。

・ 予習復習のポイント

予習としては、予定されている授業内容を予め確認しておくこと。
 復習としては、講義で用いた配布資料や演習問題を確認し、まとめておくこと。
 授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン（Apple MacBook Air）	1	スライド投影

臨床医学概論

責任者・コーディネーター	臨床医化学講座 那谷 耕司 教授		
担当講座・学科(分野)	生理学講座統合生理学分野、超高磁場MRI診断・病態研究部門、内科学講座心血管・腎・内分泌内科分野、内科学講座呼吸器・アレルギー・膠原病内科分野、皮膚科学講座、耳鼻咽喉科学講座、産婦人科学講座、脳神経外科学講座、小児科学講座、口腔顎顔面再建学講座口腔外科学分野、臨床検査医学講座、放射線腫瘍学、歯科保存学講座歯周療法学分野、臨床医化学講座		
対象学年	4	区分・時間数	講義 22.5 時間
期間	後期		
単位数	2 単位		

・学習方針（講義概要等）

6年制薬剤師教育においては、医療現場で活躍する薬剤師を育てる医療薬学が重視されている。「臨床医学概論」では、主に岩手医科大学医学部・歯学部教員らによる基礎医学、臨床医学の講義により、医療現場での「診療」について学び、医療現場で必要になる知識や技能の習得を目指す。また現在の医学、医療が直面している問題点とその解決法についての理解を深める。

・教育成果（アウトカム）

本講義では、主に医療現場で働く岩手医科大学附属病院の医師・歯科医師らの解説により、様々な分野における主要な疾患についての病因、検査、診断、治療方針などを学ぶことで、良質で安全な医療を実践するために臨床薬剤師として必要な基本的な医学知識を習得できる。

また、薬剤師としてチーム医療に携わる心構え、コミュニケーション法についても理解が深まる。
(ディプロマポリシー：2, 4, 7, 8, 9)

・到達目標（SBO）

1. 基礎医学・臨床医学の基本概念を学び医療のしくみを知る。(☆)
2. 医療に求められる技能、態度、倫理、安全性を理解できる。(☆)
3. 現代医療の現状と役割について理解できる。(☆)
4. 体の仕組みを学び、病気が患者に及ぼす影響について概説できる。(☆)
5. 代表的な臨床検査を列举し、その検査値の異常から推測される主な疾患を挙げるができる。(☆)
6. 循環器系、呼吸器系、脳神経系、女性生殖器系、皮膚疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列举できる。(☆)
7. 頭頸部、小児、口腔の疾患の種類及びその症状とそれらに対する薬物治療、外科的治療法について列举できる。(☆)
8. 診察から治療までの流れを理解し、その中で薬剤師が果たす役割について概説できる。(☆)
9. 放射線腫瘍学について概説できる。(☆)
10. トランスレーショナルリサーチについて概説できる。(☆)
11. 法医学、法科学において薬剤師が果たす役割について概説できる。(☆)
12. 現代医学・医療が直面している問題点を理解できる。(☆)

13. チーム医療に求められるコミュニケーション能力の重要性を理解できる。(☆)
 14. 医師、歯科医師の視点から疾患を考えることができる。(☆)

・ 講義日程

(矢) 東 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
9/5	月	4	超高磁場MRI 診断・病態研究部門	佐々木 真理 教授	トランスレーショナルリサーチ (☆)
9/12	月	4	小児科学講座	松本 敦 助教	診断と治療1 (小児疾患) (☆)
9/23	金	4	歯科保存学講座 歯周療法学分野	八重柏 隆 教授	診断と治療2 (歯周病) (☆)
9/26	月	4	内科学講座 心血管・腎・内分泌 内科分野	中村 元行 教授	診断と治療3 (循環器疾患) (☆) 循環器疾患の分類とその特徴、 病因と対策法を理解する。 【講義内容】 1. 病因 2. 心電図・不整脈 3. 心不全 4. 冠動脈疾患 5. 心臓弁膜症 6. 心筋症 7. 心膜疾患 8. 脈管疾患
10/3	月	4	産婦人科学講座	庄子 忠宏 講師	診断と治療4 (産科・婦人科疾患) (☆)
10/6	木	2	脳神経外科学講座	小笠原 邦昭 教授	診断と治療5 (脳神経系疾患) (☆)
10/13	木	1	臨床検査医学講座	諏訪部 章 教授	臨床検査法概論1 (☆)
10/13	木	2	臨床検査医学講座	諏訪部 章 教授	臨床検査法概論2 (☆)
10/14	金	3	生理学講座 統合生理学分野	久保川 学 教授	腎臓の生理学と医療 (☆)
10/14	金	4	頭頸部外科学科	志賀 清人 教授	診断と治療6 (頭頸部疾患) (☆)
10/17	月	4	臨床医化学講座	那谷雅之 非常勤講師	薬剤師と法医学 (☆) 講師：三重大学大学院医学系研究 科法医法科学分野教授 那谷雅之 先生
10/20	木	4	口腔顎顔面再建学講座 口腔外科学分野	杉山 芳樹 教授	診断と治療7 (口腔疾患) (☆)
10/21	金	3	放射線腫瘍学科	有賀 久哲 教授	診断と治療8 (放射線腫瘍学) (☆)

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
10/21	金	4	内科学講座 呼吸器・アレルギー・ 膠原病内科分野	山内 広平 教授	診断と治療9 (呼吸器疾患) (☆)
10/24	月	2	皮膚科学講座	赤坂 俊英 教授	診断と治療10 (皮膚疾患) (☆) 代表的皮膚疾患を紹介するとともに、その薬物治療法、特に外用治療について講義する。

・教科書・参考書等(教：教科書 参：参考書 推：推薦図書)

	書籍名	著者名	発行所	発行年
参	スタンダード薬学シリーズ6 「薬と疾病 II.薬物治療 (1) 第2版」	日本薬学会 編	東京化学同人 (定価 5,600 円)	2012
教	薬剤治療学 改訂第5版	吉尾 隆他 編	南山堂 (定価 8,800 円)	2016

・成績評価方法

各講義終了後に提出させる「講義の概要」の提出状況(10%)およびレポート(90%)から総合的に評価する。

・予習復習のポイント

講義のポイントとなる点については、できるだけその日のうちに復習しておくこと。予習の必要は特にないが、機能形態学、細胞生物学、生化学、薬理学などで学習した内容については、再確認しておくとう理解の助けになります。

授業に対する復習の時間は約30分を要する。